

日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会
IGAC 小委員会 第 24 期・第二回
議事要旨

日時：令和元年 12 月 16 日（月） 13 時 30 分～15 時 00 分

開催場所：国立環境研究所 大気共同実験棟 203 号室

出席者：谷本浩志（委員長）、*持田陸宏（副委員長）、*金谷有剛（副委員長）、猪俣敏（幹事 議事録）、*黒川純一、*齊藤尚子、*関山剛、*高橋けんし、*永島達也、町田敏暢、*松木篤、*松田和秀、*松本淳、*宮崎雄三、*森野悠、*藪下彰啓、米村正一郎 計 17 名
*ビデオ会議での参加

欠席者：植松光夫（連携会員）、張勁（連携会員）、竹川暢之（副委員長）、入江仁士、江口菜穂、笠井康子、中山智喜、森本真司、 計 8 名

議題

1. iCACGP-IGAC 2018 国際会議報告について
2. IGAC 2020 国際会議とそれに向けた活動について
3. IGAC SSC 2019 会議報告について
4. IGAC と他の GRP 連携、KAN 連携について
5. Future Earth 日本サミットについて
6. 大気化学研究の将来構想検討について
7. その他

議題 1 として、

谷本委員長から、今夏にモントリオールで行われた IUGG General Assembly 2019 で iCACGP-IGAC 2018 国際会議の報告が行われ、関係各方面から高く評価して頂いたとの報告があった。また、iCACGP-IGAC 2018 国際会議で得られた日本の大気化学コミュニティのアクティビティと国際的認知度 (visibility) を維持するため、①「大気化学研究 iCACGP-IGAC 2018 特別号」の製本と配布、②2020 年に日本で開催される「Acid Rain 2020」国際会議への支援、③IGAC2020 に学生等若手研究者が参加する旅費の支援、の 3 案が提案された。

（金谷副委員長）すべての案がよいと思う。「Acid Rain 2020」支援はどういうことを考えているのか。

（谷本委員長）スポンサーシップとして、広告や展示はどうか、と思っている。

（町田委員）3 案とも良い案だと思う。

(町田委員) IGAC 小委員会は口座を持っていないので、JpSAC に一度お金を入れて、学会から支援するのが現実的と思う。

ここで、谷本委員長が、「その他」で事前に登録があった黒川委員からの Acid Rain 2020 開催の案内を行うように依頼し、議論した。

黒川委員より、Acid Rain 2020 開催について、以下のような説明があった。

「Acid Rain 2020 の開催は 10/20～23 で、10/19 に APCAP が開催され、Acid Rain 2020 参加者はオブザーバー参加が可能。要旨の締め切りが 4/30。事前参加登録の締め切りが 5/31 で、通常の参加登録の締め切りが 9/12、それ以降はオンサイト登録になり、それぞれ参加費は異なる設定になっている。ただし、学生は一律料金。バンケットは参加費に含まれず、別料金。寄付に関して、日本大気化学会には共催もしくは後援をお願いしたい。共催の場合は、Web にロゴが載る。後援の場合はリンクのみ。寄付の方法は 2 通り：1 つ目が日本政府観光局 (JNJO) を通した寄付、2 つ目が機器・カタログ展示。また、要旨集の広告も募集している。寄付に関して、様々な団体、企業等に、委員からも案内してほしい。」

(谷本委員長) iCACGP-IGAC 2018 では日環センターならびに ACAP から支援してもらったので、それを返す形で支援するのが良いと思う。

(町田委員) 広告掲載をして、余った分は寄付にすればどうか。

(黒川委員) iCACGP-IGAC 2018 では、日環センター、ACAP、EANET、3 団体でブースでの展示を行った。

(金谷副委員長) 展示や広告をした場合、リンクで HP につながるのは必要として、何をアピールするか。

(谷本委員長) Acid Rain 2020 の参加者は何人くらいを予想していて、どういう国から来るのか。

(黒川委員) 参加者は 300－400 人くらい。アジアが多い。生態系も多く、大気系は半分くらい。

(谷本委員長) アジアが多いのなら、アジアの大気汚染が良いのではないか。

(黒川委員) 政策関係の人も来るので、そういう人にアピールするのが良い。

(金谷副委員長) 締め切りはいつか。

(黒川委員) ブースの締め切りは 5/31 だが、そのあとも受け付けると思う。広告掲載のほうは早い者勝ち、になる。

(金谷副委員長) 原稿の締め切りは早いのか。

(黒川委員) そこはまだ決まっていない

(谷本委員長) ブースを出すとなるとどうか。

(黒川委員) 去年の経験から、人の配置が大変だった。

(谷本委員長) ブースがいいと思う人がいれば、また検討する、ということでどうか。

②の案に関して、

(関山委員) 何冊ぐらいの製本を考えているのか。カラーにするとお金がかかるのではないか。

(谷本委員長) JpSAC の会員数が 250 人ぐらいなので、そのくらいを考えている。まずは見積もりをとって見て、それで再度検討する、という進め方でいかがか。

議題 2 として、

谷本委員長から、IGAC 2020 の Local Organizing Committee と Scientific Program Committee メンバーが紹介され、前回とほぼ同じような 5 つのセッションが決まったこと、また今後、Keynote Speaker、Guest Speaker が決められていくことが伝えられた。また、参加費に関して、少し高めの設定になっていること、一方、Social プログラムは充実していることが紹介された。今回はアブストラクト投稿料を取らないことも伝えられた。また、スポンサーシップの募集についても紹介され、日本からの IGAC2020 へのスポンサーシップについて、委員に意見を求められた。

(谷本委員長) 前回会議のホスト国として、日本の大気化学コミュニティの認知度を維持するためにも有益かと思う。ただ、まだ一年ほど前なので、決定の時期としては、もう少し後で良い。

(町田委員) どういう効果が期待できるか？

(谷本委員長) ロゴが HP に載るほか、学生の支援になる。

(永島委員) ロゴが載る最少額はいくらか。

(谷本委員長) Early Career Program の Contribution only が最少金額で £ 500。ロゴが掲載される最少額を出すのが現実的か、と思う。

(松木委員) 前回、ローカルではない海外からの学会等からの寄付はあったのか。

(谷本委員長) 前回では、ICSU があった。前々回のブレッケンリッジ会議でもイギリスが 1 万ドルを支援をしていた。

(谷本委員長) お金を出すことによって、「日本が若手を支援していることを知ってもらう」効果があると思う。

議題 3 として、

谷本委員長から、10/28-31 に開催された IGAC SSC 2019 会議において、「IGAC visioning exercise (IGAC の将来を考える議論)」が行われたことが紹介された。その場の議論で、IGAC としてこれまでの Providing Leadership、Fostering Community、Building Capacity に加え、「社会をエンゲージする」が新しいミッションとして必要であることが強く共有されたことが報告された。今回の会議に国立環境研究所から資金を提供し、共催の会議としたため、IGAC HP に Funders の欄に国立環境研究所のロゴがのっていることも紹介された。

国立環境研究所の Edit Nagy-Tanaka さんも同席し、報告書を作成予定で、その日本語訳版も作成する予定であることも紹介された。

また、谷本共同議長の任期が 2020 年 12 月までで、同じ時期に南アフリカ、メキシコ、カナダの委員の任期が終えるため、2020 年開始の SSC 委員の選考がもうすぐ始まり、2020 年 6 月には次期委員が決定し、9 月の IGAC2020 で発表される予定であることが紹介され、谷本委員長より、次期委員候補として、自薦・他薦問わず申し出てほしい旨の依頼があった。

また、2020 年 6 月にオーストラリア・ブリスベンで、SRI2020 (Sustainability Research & Innovation 2020) が開催されることも紹介された。

特に議論なし

議題 4 として、

谷本委員長より、8/7 に日本学術会議講堂において、日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会、及びフューチャー・アースの推進と連携に関する委員会の主催で開催された「Future Earth 時代における地球表層システム科学と防災・減災研究」の公開シンポジウムにおいて、IGAC の日本主導の研究の報告と、他の GRP の SOLAS、GLP、iLEAPS との連携の可能性の議論が行われたことの紹介があった。谷本委員長より、SOLAS の代表として、SOLAS の日本主導の研究の報告を行った宮崎委員に感想が求められ、宮崎委員より、連携する話は出たが、現実のところは容易ではない、との認識でいる、とのコメントがあった。

他、特に議論なし

議題 5 として、

谷本委員長より、12/19 に Future Earth 日本サミットが開催され、谷本委員長が明治大・松浦教授と一緒に分科会 1 のモデレーターを務めることが紹介された。

特に議論なし

議題 6 として、

金谷副委員長より、大気化学研究の将来構想を冊子にまとめたものを作る予定で、今後 10 年ぐらいでのコミュニティの底上げを目指すもので、背景や今後のスケジュール等について以下のような説明があった。

「背景としては、2008 年に当時の小池委員長のもと、IGAC 小委員会が「記録」として将来構想を取りまとめて以来、大気化学コミュニティとして研究計画を文章として取りまとめてこなかったが、昨今の大型研究提案等を行う際のよりどころとする戦略文書が存在しない状況が続いていた。スケジュールとして、今年中にコアテーマの選定を行う予定で、

現在 5 つのコアテーマの案を考えていて、テーマ代表者に声をかけていっているところ。2021/6 に中間とりまとめを行い、2022/6 までに各テーマ間のギャップ・連携議論を重ね、3、4 年目に報告書を完成させるスケジュールを考えている。テーマ間で統一感を出すための必要 5 項目を各テーマの最初につけるようにしている。」

説明の最後に、金谷副委員長から、IGAC 小委員会メンバーに俯瞰的役割を担ってほしい、との依頼があった。また、とりまとめを一緒に行っている持田副委員長からも、この案件は日本大気化学会では承認されていて、IGAC 小委員会でもコミットしてもらいたい、との意向が伝えられた。また、持田副委員長は JAMSTEC・伊藤さんとの SOLAS 関連の研究集会でも話を始めていることの紹介があった。

(町田委員) 衛星関連の NASA Decadal Survey の報告書を共有してほしい

(金谷副委員長) URL をお知らせする。他にも 10 年計画を出しているところがあるので、それも共有する。

(谷本委員長) コアテーマやその人選はどうするか。

(金谷副委員長) 自薦、他薦問わず連絡してほしい。

(持田副委員長) 名古屋大の共同利用の締め切りが迫っているので、研究集会等を考えている場合は早めに申請をお願いしたい。

(宮崎委員) 低温研の共同利用には、昨年同様の SOLAS 関連の研究集会で応募しようと思っている。

(松木委員) 金沢大の共同利用は近々に募集が出る予定。締め切りは名古屋大とほぼ同じ。

(谷本委員長) 個別に議論を深めていくと同時に、情報共有も必要で、JpGU、討論会の年 2 回程度行うのが良いのではないか。

ここで、谷本委員長から、コアテーマ 5 案の話し合う場の確認が行われた。「陸域・海洋生態系と大気化学」に関してはあり。「大気化学の基礎プロセス」に関しては、不均一大気化学ワークショップがその場になり得る。「SLCF とエミッション」に関しては、衛星の会合がいいと思われる。「気象学と大気化学の接点」は、確認。「温室効果気体関連」は、町田委員にサポートをお願いしたい。

(永島委員) 2008 年のとりまとめ文章と今回の文章の関係性はどうか。

(金谷副委員長) 同じようなシリーズとして出すと効果的かもしれない。そのような視点でも今後議論していきたい。

(永島委員) 2008 年版からどのように進んだかを含めるのがいいのではないか。

(金谷副委員長) マイルストーンとして触れるのかいいと思う。ガイダンスの項目に入れることを検討してみる。

(谷本委員長) 大気化学の大事さが伝わるものにしたい。前出の「社会をエンゲージする」

に関連してくるが、一般の人に知ってもらう方法として、どういうものが最適か。2008 年版はどこまで読まれたか、が気になっている。

（金谷副委員長）何人がダウンロードしたかがわかるようにすることを考えることも必要かもしれない。また、誰に読ませるか、という視点も今後考える必要があると思う。

（谷本委員長）そういう意味で、各論に入る前の共通の 5 項目の部分が大事だと思う。

議題 7、その他として、

谷本委員長より、12/26 に FE・WCRP 合同分科会があり、それに出席して、IGAC 小委員会の活動を報告する旨が紹介された。また、iLEAPS 小委員会に IGAC 小委員会の委員が呼ばれたので、その逆をやって連携を深めようと思っている、との考えが述べられた。また、SOLAS との連携について、持田副委員長、宮崎委員が開催予定の研究集会の情報を、IGAC 小委員会内でも共有するように依頼があった。

最後に、谷本委員長から、次回の会議は、今日の会議で持ち越した内容が見えてくる時期に開催を予定したいとのアナウンスがあった。

なお、本議事要旨はメールで回覧のうえ、修正は委員長一任とする旨が承認された。